

題名	分類番号	枚数	内容
あおよ、かえってこい	K-21	12枚	太平洋戦争末期、東京は毎日のようにアメリカ軍の爆撃にさらされていました。—そのころ、ぼくの友だちに、けんちゃんという子がいた。けんちゃんの家は運送屋で、あおという、かわいい馬がいた。ぼくは、あおと親しくなったが、3月10日の大空襲の日に、ぼくとあおは火と煙につつまれて—
紙芝居日本国憲法1 「憲法のあゆみ」	K-16	16枚	明治憲法から日本国憲法への歩み、両者のちがいを描いています。
紙芝居日本国憲法2 「ヒロシマに行って」	K-17	16枚	憲法の戦争放棄と国際平和主義について描いています。
紙芝居日本国憲法3 「クラス委員はだれ」	K-18	16枚	憲法の主権在民とはなにかについて描いています。
紙芝居日本国憲法4 「がんばれ！勇くん」	K-19	16枚	憲法の基本的人権の尊重について描いています。
紙芝居日本国憲法5 「どんぐり山 子どもの森公園」	K-20	16枚	憲法の地方自治とわたしたちの暮らしについて描いています。
かわいそうなぞう	K-22	12枚	太平洋戦争のおわりごろ、上野動物園には、ジョンとワンリーとトンキーの3頭のゾウがいました。戦争がはげしくなり、東京の町は、毎日のようにアメリカ軍の空襲をうけるようになりました。動物園が爆撃されて、ゾウがあばれだしたら大変です。そこで、3頭のゾウは、つぎつぎに殺されることになりました。戦争の犠牲にされた、かわいそうなゾウたちのものがたりです。
原爆の子さだ子の願い	K-24	12枚	さだ子が2歳のとき、広島に原爆が落とされました。運よく助かり、「さる」と呼ばれるほど元気に成長しましたが、運動会するとき突然倒れてしまいました。もしや原爆が？
トビウオのぼうやは びょうきです	K-23	12枚	しあわせな南の海に、トビウオの親子が住んでいました。父さんが仲間と出かけた日、遠くの空が真っ赤に染まり、水がグラッとゆれて、ずずずーんと恐ろしい音が響いてきました。その後、白い雪のような粉がふり、トビウオの坊やは、誰にもわからない病気になってしまったのです。平和への願いをこめて書かれた名作を紙芝居化したものです。
日本の歴史21 「陸蒸気と小学校」	K-6	16枚	明治初期の文明開化をとりあげ、旧時代から新時代への転換を感覚的に理解できるように描いています。
日本の歴史22 「自由の旗」	K-7	16枚	自由民権運動の一つの典型といわれる秩父事件を描いたものです。
日本の歴史23 「野麦峠をこえて」	K-8	16枚	山本茂美著「あゝ野麦峠」をもとに、山村のまずしさ、その貧しさを生む封建的土地制度、工場で働く女性たちの苦しみを通して、日本の近代化のひとつまを描いています。
日本の歴史24 「おかかたちの米騒動」	K-9	16枚	富山県の漁村地帯からはじまった米騒動をとりあげ、その主役が漁家の主婦（おかか）たちであったこと、これをきっかけに米騒動が全国に広がったこと、などを通して、日本の民衆運動の発展を理解できるように描いています。
日本の歴史25 「雨ニモマケズ」	K-10	16枚	宮沢賢治の生涯を描き、賢治がどんな先生であったのか、賢治は農民のためにどんなことをしたか、当時の農民がどんな暮らしをしていたかなどを考えさせるように描いています。
日本の歴史26 「赤い夕日」	K-11	16枚	15年戦争の始まりとなった「満州」事変をとりあげ、「満州国」の建国から、やがて移民が送りこまれるまでを描いて、なぜ国民が積極的に侵略戦争を支援したのかを考えさせます。

日本の歴史27 「雪山に生きぬく13年」	K-12	16枚	太平洋戦争で日本に強制連行された中国人・劉連（リュウ＝リエンレン）さんの苦闘の物語であり、日本が中国人に対してどんなことをしたかなどについて考えさせます。
日本の歴史28 「嘉代子ざくら」	K-13	16枚	長崎への原子爆弾で被爆死したひとりの高等女学校生の生涯を描き、原爆の悲惨さ、平和の尊さを描いています。
日本の歴史29 「リンゴの歌」	K-14	16枚	太平洋戦争の敗戦から日本国憲法の成立までの時期を扱い、敗戦から占領、戦後の混乱と諸改革、そして新しい憲法の成立にいたる過程を描いています。
日本の歴史30 「ノーモア ＝ヒバクシャ」	K-15	16枚	世界各地でもりあがる戦後の反核・平和運動をとりあげ、被爆国・日本の取り組みなどを通して、平和の大切さを描いています。
はだしのゲン 第1巻 はだしのゲン 第2巻 はだしのゲン 第3巻 はだしのゲン 第4巻 はだしのゲン 第5巻	K-1 K-2 K-3 K-4 K-5	各16枚	原爆体験者である中沢啓治氏によって描かれた「はだしのゲン」は、発売以来大反響を呼び、今日でも多くの子もたちに読みつがれている名作ですが、かくも子どもたちに支持されているのはなぜでしょうか。 一つには、子どもたちの鋭い感受性が、原爆によって繰り広げられる事態に敏感に反応するからでしょう。しかし何よりも、その魅力は、主人公ゲンの明るくたくましい生きざまにあります。ゲンの“麦のように踏まれても踏まれてもまっすぐ伸びる姿”が、悲しみを未来の糧とする姿が、子どもたちの共感と勇気と呼びさすのです。
ぼく、スイカだいすき	K-25	12枚	ベトナムの男の子ティクちゃんの好物はスイカ。母さんが「皮はきちんと捨ててね」と言ったのに、窓からポーイ！その皮をおばあちゃんが踏んでしまった！
平和のちかい	K-26	16枚	世界初の原子爆弾が投下された広島市は、一瞬にして廃墟と化し、多くの人々が虐殺された。被爆当時の惨状やその後の苦しみを子どもたちの体験からリアルに語る。
のばら	K-27	12枚	国境をそれぞれ守っている老兵と新兵は、仲良しだった。やがて戦争が起こり、二人は敵同士に変わる。若者は前線へ向かい、老人は悲しみの中で戦争を恨むのだった。
二度と	K-28	12枚	1945（昭和20）年8月、世界ではじめての原子爆弾「原爆」が広島と長崎に落とされ、人も動物も何もかもがいのちをうばわれた。二度と原爆を落とさないで!!